

一 古來檢地御條目如左

- ① 一 檢地ハ百姓身代浮沈ニ候間、別テ入念其郷ノ土目ヲ見ル事肝要ニ候、田畑上中下ノ伏場、或ハ反ダカ、出目有レ之カ、不足可レ致カノ考迄見定、諸事致了簡一、御繩無レ強、正道ニ打可レ申事
- ② 一 田畑上中下ノ位附專ニ候、惣テ甲乙無レ之地方ハ、村前ヨリ上、順々ニ野末ヲ下ニイタシ、三ツ折等分ノ位付、作徳ニ候トモ、山方野方ノ村々ハ相違ノ地方可レ有レ之、尚又用水惡水懸引旱損水損收納ノ勝手迄相考位附可レ致了簡一事
附田畠致^三坪付^一、地請ノ節無^三相違^一様可レ致事
- ③ 一 上郷下郷ノ分、地面ノ善惡ニ計不^レ可^レ限、農業ノ外ニ餘勢有^レ之カ、田方過不足、亦ハ野山草飼場ノ勝手迄大概含^レ之、無^三甲乙^一様可レ考事
- ④ 一 竿打ハ不^レ過^三四人^一ニ、田畑或ハ四人穂ノ上苧田荒畑等ノ打ヤウ彌々吟味イタシ、一日ノ内ニモ幾度モ様シ打可レ爲^レ致、殊ニタメ込候事、大田畑不^レ及^三目前^一ハ、幾枚ニモ元切打候テ、別筆力入歩ニイタス可ク、御繩反別數多安クイタシ候テモ、篋相ニテハヨロシカラザル事
- ⑤ 一 先組ノ内ニテ手分イタシ、打申間敷事
- ⑥ 一 寺社屋敷ノ儀ハ、僉議ノ上屋敷分計除キ、帳面ニ反別ヲ顯シ可^レ申候、然レドモ不^レ及^三了簡^一儀ハ、衆評ノ上相極メ、猶不^三相濟^一儀ハ、窺ノ上相究可^レ申事
- ⑦ 一 道橋井堀添狹ニ打詰申間ジキ事
- ⑧ 一 案内イタシ名主百姓ニ引落無^レ之タメ、誓紙可^レ申事
- ⑨ 一 勘定場帳面認候場へ、他ノ者入間ジキ事
- ⑩ 一 親ノ田畑子供分ルトモ、銘々持主名ヲ附可^レ申事
- ⑪ 一 一村ノ内名主大勢有^レ之、組下ノ百姓分候分致^三分付^一候ハ誰組ト書付、以來名田ノ分付紛無^レ之様イタスベキコト
- ⑫ 一 日々打候本帖出來イタシ候ハ、頭付無^レ之以前毎日百姓ニ貸渡、間違名違落地ニ重附等ノ有無吟味可^レ爲^レ致事
- ⑬ 一 間竿ハ大工曲尺ニテ、一丈二尺二分ニ可^三相究^一事
- ⑭ 一 往還ノ大道田畑作場道、并落シ堀圍堤等ノ端道ハ、三尺宛除キ可^レ申事
- ⑮ 一 年季ヲ定田畠質物ニ入候者有^レ之哉相タツネ、質入候者アラバ、何年以前何年ヨリ何年季ニ入置候トモ、年季明受戻候儀不^三相成^一、田畑流ニ成候トカ、又何年以前質入ニイタシ置、年季明不^レ申候トカ申候ハ、其通證文取^レ之、其者ニ名前ヲ記可^レ申コト

右之通可^三相心得^一候、猶不^三相分^一儀ハ窺可^レ申者也
年號月日

一 享保十一年被「仰出」候新田檢地御條目如「左、當時是ヲ用フル也

- ① 一 關東筋所々新田畑屋敷檢地ノ儀、先達テ地所割渡有「之候分ハ、帖口ヨリ番附ノ地引申ツケ候上、田畠一枚限右ノ番附反畝歩、地主名前ノ札ヲ建サセ、檢地濟次第、右ノ札ヲ拔捨サセ可「申コト
- ② 一 村々ニテ致「内割」、反畝歩分ケ置候所ハ、反別地引帳ニ記、札建候儀右同斷、若反畝歩不「知所ハ、可「致「檢地」順ニ番付ヲキハメ、右ノ趣地引帳拵、前同斷ニ札ヲタテサセ可「申事
- ③ 但、野帳ニハ、先達テ割渡或ハ村割ノ反畝歩ヲ肩書ニシルシ、番付不「紛、落地無「之様ニ可「致事
- ④ 一 村境竝本田畑古新田堺ハ、檢地不「取掛「前方、双方名主組頭、或ハ庄屋年寄等案内ノ者立合、右ノ境目不「相紛「様、境目印相建サセ可「申候コト
- ⑤ 但境目ハ雙方申分有「之、堺目不分明ノ場所所有「之候ハ、双方吟味ノ上、繪圖書附ヲ以可「相伺「事
- ⑥ 一 其村名主年寄組頭、並頭百姓ノ内、吟味ノ上人數相應ニ申ツケ、落地仕間敷由、並道筋用水溝堀等無益ノ儀無「之様、有體ニ案内可「仕由誓詞可「申附「事
- ⑦ 附、繩引竿取召仕等ニ至迄、若非儀於「有「之ハ、御代官御勘定人衆ノ内へ早速可「申出「旨誓詞前書ニ可「載コト
- ⑧ 一 間竿六尺一分一間ノ積ニツキ、一丈二尺二分盛込ニテ、二間竿ヲ以テ打「之、一反三百坪タルベシ
- ⑨ 一 繩ハ一間ヅ、ノ管繩六十間、或ハ三十間繩ヲ用ユベシ、繩延縮アルベク間、早朝並四時八時改「之勿論、管透目無「之様、一間ヅ、間數ノ札ヲ可「附申「事
- ⑩ 一 間數ノ端尺ハ、六寸・一尺二寸・一尺八寸・二尺四寸・三尺・三尺六寸・四尺二寸・四尺八寸・五尺四寸、右ノ寸尺ニ不足ノ分ハ捨「之、算用ノ歩詰一步ハ捨、二歩ハ三步ニ足シ、是ヨリ上ノ端ハ准「之致「捨加」、畝ノ歩ニ合候様仕「ベキ事
- ⑪ 附、竿繩數ヲ入候分改「之、寸尺ヲ用、平均ノ寸尺ハ、右之通尺寸ヲ可「用事
- ⑫ 一 田畠一枚切間數合ニツケ、讀合之上合算ニテ反畝歩ヲツケ、其場ニテハ二帳共ニ、間數反畝歩御勘定人印形可「仕候、尤間數反畝歩相違有「之間敷哉、案内ノ者ニモ存シ寄申サセ、相違可「有「之趣ニ候ハ可「改直「事
- ⑬ 一 野帖ノ内一通日々百姓共へ貸渡間數、反畝歩相違モ有「之マジキヤ相尋、少々ニテモ云分アリ候ハ、其品承届可「改直「事
- ⑭ 一 田畑トモ字入念可「書付」、竝道幅用水惡水堀幅改メ、其際ノ田畑脇書ニ可「記事
- ⑮ 一 新田所々御年貢可「請置「藏屋シキアリ候ハ、敷地ハ檢地高入ニ仕、物成引ニ致シ、勿論檢地帖奥書ニ委細シルス可「キ事
- ⑯ 附、田畑中大石大木塚等アリ候ハ、吟味ノ上檢地除「之、其品地株ノ脇書ニシルス可「キコト
- ⑰ 一 寺社領ノサカヒメ吟味ノ上、不「紛様ニ帖面可「シルシ置「コト
- ⑱ 一 新田畑屋シキ林畠等ノ内寺社領有「之、願ノ上相立候分ハ、其場所ノ分可「爲「無用」、檢地願不「申出「分、檢地ノ内ニ可「入、廟所ハ見捨地タルベキコト
- ⑳ 附、無檢地ニ致候分、其田ハ夕際并總歩ノ處へ明細ニ可「書記「事
- ㉑ 一 南東ニ高岸ヲ受候場所、并往還道筋並木有「之場處、田畠木蔭引可「爲「見捨「事
- ㉒ 一 畔際一尺ヅツ除ベシ、但類地畔ギハ一尺ヅ、引「之、畦一尺ノ積類地トモニ畔引、一尺五寸ノ積リタルベシ、高畔ハ見計可「引「之、並小堤等有「之分、長幅高二相改メ、其際ノ田畠脇書ニ致シ、以來不「紛様仕ルベキ事
- ㉓ 一 用水有「之、田ニ可「成所畠ニイタシ有「之分ハ、田方ニイタシニ檢地」、尤開發ネガヒノ趣キ吟味可「有「之事
- ㉔ 一 田方用水不「差支「様吟味有「之、小溝路トモニ以來迄引候様地株ノ脇書ニ可「仕候、田ヨリ田へ水ヒキ候地カブハ、其品ヲ記置「ベキ事
- ㉕ 一 借家並小作有「之候ハ、帳面ニ本地主ヲ可「記、借家ノ小作ノ名ヲシルシ度ト相願候ハ、本地主カブ吟味ノ上、不「相紛「様地主ノ脇へ願ドホリシルスベキ事
- ㉖ 一 田畑位附其村本田畠ノ位ツケヲ元ニ用ヒ、上ハ上ノ下、中ハ中ノ下、下ハ下々ノ下、見附何レモ一斗劣リ、新田ハタヲ可「究、勿論其村古田ハ眞土ノ所、新田畠野土ニ候ハ、隣郷吟味イタシ、隣郷ノ野土ハタケノ位ツケヲ見合、土地相應ニ相極、其村本田畠ハ野土新田ハタハ眞土ニ候ハ、隣郷眞土ノ處ノ位ヲ以、右同斷見計可「極、屋敷ハ其村上畑ノ位付タルベシ
- ㉗ 一 屋敷ノ内家下庭構ノ分、上畑ノ位付タルベシ、ヤシキ構ノ内畑ハ見分ノ上位ヲ付、藪林等ハ藪

錢林錢可ニ申付、若又不相應ノ藪林仕立候ハ、吟味ヲ遂ゲベキ事

②① 一 漆茶桑楮等植ツケアリ候ハ、其植物ニ不レ拘、土地相應位付タルベシ

②② 一 早損水損ノ申立有レ之候トモ、一切聞取不レ申、其土地相應ノ石盛相究ムベキコト

②③ 一 新田場ニ竹木苜等生立、或ハ芝地有レ之候バ、吟味ノ上田畑開發成ベク場ハ、地主相極致ニ檢地、

開發願相濟候趣ヲ以、鋤下ゲ吟味可レ有レ之候、田畑ニ不レ成場處ハ、是又右願濟候節ノ趣相究、又

ハ林畠或ハ山錢野錢等見計申ツケベク事

②④ 一 兩毛作片毛作無ニ其差別、土地相應ノ石盛キハメベキ事

②⑤ 一 田ハ夕位附土地再見分ノ爲ニ候間、檢地相濟候上別段ニアヒ廻、石盛ノ位ツケ致ベキ事

②⑥ 一 案内ノ者誓詞申ツケ候上ハ、一二付ノ番ツケノ處ヨリ一ヨリ十五六迄、段々ツケ置サセ、取レ之候

上御代官御勘定人下役手札ヲ以テ入札致シ、案内ノ者ノ位ヅケヲモ見合、一決不レ致候バ、相談ノ上

アヒキハムベキコト

②⑦ 一 檢地帳相極候バ、御代官御勘定人、竝下役竿取案内ノ百姓モ連印請書致シ、二冊可ニ差出一候、

一 冊ハ其村名主ニ可ニ相渡、一冊ハ御勘定所へ可レ納事

②⑧ 一 新田畑屋敷惣テ開發願之趣、相應ノ儀有レ之候バ、吟味ノ上ネガヒノ通可ニ相極、品替リ其申分

無レ據儀ニ候バ、吟味ノ上其通り相極、其品書附ヲ以、檢地仕廻候以後可ニ相達ニ事

②⑨ 一 間數反畝歩石盛附、惣テ檢地致方、村中惣百姓申分無レ之哉、並竿取繩引下々迄、非儀成仕方無

レ之ヤ、吟味ノ上申分無レ之候バ、其段惣百姓連印一札可レ取事

③① 一 竿取繩ヒキノ者吟味イタシ勤サセ、檢地ノ場へ無用ノ人足不ニ差出ニ様可ニ申附ニ事

③② 一 作毛不ニ踏荒ニ様入念可ニ申附ニ候、且又御代官御勘定人、並下役竿取等ニ至ル迄木錢拂、其所有

合ノ野菜ヲ以テ、一汁一菜ノ外酒サカナ一切サシ出サズ、諸事費無レ之様吟味可ニ申附ニコト

右檢地ハ百姓永代家祿ニ候條、檢地石盛地面相當イタシ候様可ニ入念ニ者也

午八月

此度關東所々新田畠、並見トリ場檢地ノ儀ニツキ、條目相極候間寫ニ遣之候、各檢地ノ處ニ有レ之候

ハ、右ノ趣ヲ以檢地ノ積被ニ相心得、尤檢地可レ致前願有レ之候バ、可レ被ニ相伺候、以上

追而條目寫候テ、段々相廻シ可レ被レ申候、在府無レ之面々ハ、留守居ノ者致ニ披見、可ニ相返候、

八月廿九日

井	細	神	辻	杉	萩	稻	久	寛	駒
澤	田	谷	六	岡	原	生	松	木	木
彌	彌	武	郎	彌	増	下	大	根	根
惣	惣	右	左	太	左	野	和	肥	肥
兵	兵	衛	衛	郎	衛	野	摩	後	後
衛	衛	門	門	門	門	守	守	守	守
郎	郎	門	門	門	門	守	守	守	守

御代官衆

右新田檢地條目享保十一年相究、其後ハ右御定法ヲ以御料私領トモ致ニ檢地ニ事也

1) 「**解題 地方凡例録** (中略) 本書は幕末及明治初期には寫本にて坊間に傳ふるもの頗ぶる多く、又萬延元年には東條耕なる者之を校訂して二十卷となし、明治四年を以て出版したるものあり、又其後東條本を複製公行したる者ありて、世上には多く此の二種の東條本のみ傳はり居れども、本書は東條本の刊行以前、即ち慶應二年に南總の人太倉儀なる者が、活字を以て印行したる十一卷を底本となして、此に收容したるものなり、大倉本は東條本に比すれば、活字誤植等少なからず、中には行文殆んど通じ難き所ありと雖も、東條本は出版者の筆を加へたる所多く、又原文を省略したる廉も多ければ、詰り大倉本の方、不完全ながら、比較的原著の眞面目を保留すること疑なきが如し、(中略) 東條本は現に如上二人の校正を経たるものにして、固より誤謬も少なく、随て通讀し易しと雖も、この東條本は原本の一卷を二卷に分ち、凡て二十卷となすも、原本は十一卷ありて、全くその一卷分を省略したるものなり、故に此の點に於ても、大倉本の方が久敬の原本に近きを證するに足るべし(中略) 著者大石久敬、字は士恭、巖華と號す、通稱は猪十郎、高崎藩の士なり、出で、郡吏となり、經濟の才に長じ、循吏を以て聞ゆ、寛政六年十一月歳七十四にて歿せり(注意) 著者が小宮山昌世の田園類説を増補したる一人なることは、本叢書第八卷増補田園類説の解題及同書の序文に之を記せり、殊に其の序文には彼が谷本脩と親交ありし等の事を詳にしあれば参考せらるべし 大正五年十二月 瀧本誠一 瀧本誠一編『日本經濟叢書』卷三十一(大正五年、日本經濟叢書刊行會) 解題一頁〜四頁

2) 「間敷」ではなく、「間敷」(間敷)である。

3) 安藤博編『徳川幕府県治要略』には、第⑮条と同⑯条の間に「一 屋敷構之分四方壹間通可除之、但小屋敷町並の屋敷は右除地可爲見計事。」とあり、司法省編『徳川禁令考』にも「一 屋敷構之分四方壹間通可除之但小屋敷町並之屋敷ハ右除地可爲見計事」とあり、本史料にはこの箇条が落ちている。

4) 「上ハ上ノ下、中ハ中ノ下、下ハ下々ノ下」ではなく「上、上ノ下、中、中ノ下、下、下ノ下」である。

※ 右条目中の**返り点**(一・二) 一部(第⑯条)を加入、及び**漢字**(異体字)の一部を**変更**、或は**改めた**箇所がある。又、各条目前の符号(古來檢地御條目①〜⑮・享保十一年被_レ仰出_レ候新田檢地御條目①〜⑳)、並びにルビの(ママ)は拙職が加入した。

※ 尚、本条目は、北島正元編『土地制度史Ⅱ』体系日本史叢書7 (1992年、山川出版社) 65頁〜71頁、安藤博編『復刻 徳川幕府県治要略』(昭和45年、柏書房) 153頁〜158頁、大石慎三郎校訂『地方凡例録』上巻(昭和50年、近藤出版社) 80頁〜85頁、司法省編『徳川禁令考』訂2版(明治27年〜同38年)(第六帙卷之五十九第六十三章檢地條目附知行割享保十一年八月新田檢地條目條々 四六八丁〜四七二丁)を参考にした。

※ 平成二十二年五月二十五日 金子和也写